

# 臺灣の道路 (其の六)

## 三浦磐雄

### 第五、鋪裝情況 (つゞき)

四、新竹州に於ける鋪裝情況  
 市街地及其の他の道路に於ける鋪裝情況を見るに、新竹市は明治三十八年に市區改正計畫を實施したが、逐年之に基いて未完成の街路を築造し、現在の振興都市を形成したのである。然し此の發展途上に在る當市としては砂利道で

あつて、降雨等による道路の補修は勿論、四季に亘つて常に強風吹き荒れて砂塵濛々と揚り、交通上にも、衛生上にも支障が少くないから、路面の鋪裝の必要に逼り、種々考究の結果、數年間安全且つ補修を要することのない鋪裝工を選び、一意鋪裝面積の擴張新設に邁進すべき方針を採つて、昭和九年度以降年を逐うて主要街路から鋪裝工事を始めたのである。其の實施した數字は次の如くである。

#### 新竹市鋪裝工事實施調

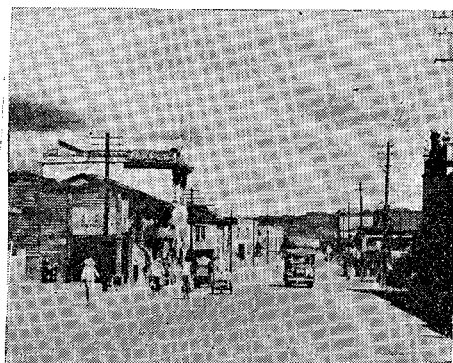
年度	路線數	種別	延長(米)	厚(糎)	平均幅員(米)	面積(平方米)	工費(圓)	單價(圓)
昭和九年	二	ワレナイ	一、二〇〇	三・五	一四・六五	一七、六三九・〇	三五、二一九・七〇	一九九七
同十年	三	ビチニリシツク	八、六・五	三・〇	八、二三九・〇	一六、三三一・八八	一一、九八二	一九九二
計	五		二、〇七〇・五	三・〇	一二、五五六	二五、八七八・〇	五二、五五一・五八	一九九二

尙新竹市に於て鋪裝した「ワレナイト・ピチュリシツク」式の一平方米當り單價は、基礎工事其の他によつて多少の相違はあるが、大體基礎工共に次の如きものである。



新盛橋通り (中臺)

八年度には「ワレナイト・ピチュリシツク」鋪裝を施工した。其の結果に見るのに、簡易鋪裝の方は逐年表面に龜裂が増して、水が浸み通り其の爲道路の地盤迄も軟弱化して、破損を促進するやうな情態であるが、



樓橋通り (中臺)

「ワレナイト・ピチュリシツク」鋪裝の方は現在に至つても、原型を其の儘に保つて居て損傷の箇所も出來ず、非常好成績を示して居る。

將來は經費の許す限

### 五、臺中州に於ける鋪裝情況

臺中市では、昭和六、七年度に簡易鋪裝を試み、又昭和

厚 三 糎	一・五六九圓	厚 三 糎五	一・六六七圓
厚 四 糎	一・八三五圓	厚 五 糎	二・〇八〇圓

り、此の「ワレナイト・ピチュリシツク」鋪裝を施工して行きたいと云つて居る。州内の道路はマカダム式によつて居る所は少しあるが、概して砂利敷のまゝである。

道路の鋪裝には直接の關係はないが、臺中市の近くの海

岸に鹿港と云ふ町がある。其所の市區改正を施行した時の  
工事前、工事中及工事後の寫眞が手に這入つたから、此所  
に御紹介して置く。市區改正前には亭仔脚(檐庇ある歩道)

脚)ヲ設クヘシ但地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ  
限ニアラス  
歩道ヲ設クベキ道路竝歩道及檐庇ノ幅員構造ハ地方長官

のない狭い道路であつたのが、市區改正後には立派なものになつて居る。此の亭仔脚と名づけるものは我が國としては、臺灣の外の所では一寸見られない圖ではあるし、其の上法令にも定めてあるから本稿としては道草を採るやうではあるが、参考に亭仔脚に關係のある條文を書くことにした。



市區改正工事前の鹿港街

之ヲ定ム

臺灣家屋建築規則施行細

則(明治四十年七月、

臺灣總督府令第六十三

號)

第一條 家屋ノ總建坪ハ

敷地坪數ノ四分ノ三ヲ

超ユルコトヲ得ス

歩道及歩道上ノ建築物

ノ坪數ハ前項ノ敷地坪

數及建坪ニ算入セス

寫眞 (1)は工事前 (2)は工事中 (3)は工事後

### 六、臺南州に於ける鋪裝情況

臺南市では、昭和四年度から同九年度までの間に次表の

臺灣家屋建築規則(明治三十三年八月、律令第十四號)

第四條 道路ニ傍ウテ建築スル家屋ハ檐庇アル歩道(亭仔

やうな舗装工事を實施したのである。

尙昭和

十年度に

は舗装費

用として

一萬二千

五百六十

圓を計上

して、其

の半額は

州費で補

助するこ

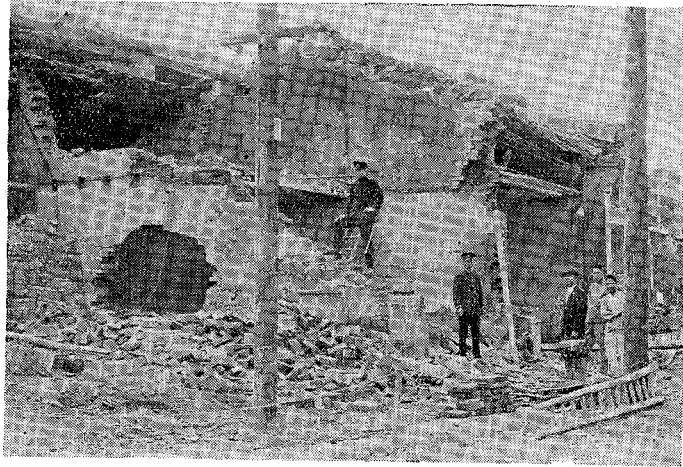
とになつ

て、西門

町二、三、

四丁目通

りを中央幅員十米に對して、舗装工事を實施するやう計畫



街港鹿の中事工正改區市

したが、其の後瀝青乳劑混合式と同滲透式の舗装工事が有

利であるこ

とを認め、

前記の西門

町線の全面

積九千六百

九十六平方

米を、瀝青

乳劑混合式

とし、白金

町一―五丁

目大宮町の

錦町通から

大宮町派出

所までの面

積七千八百

三平方米弱を同滲透式で舗装することになつて居た。



街港鹿の後工施事工正改區市

臺南市鋪裝工事實施調

年度	種類	延長(米)	幅(米)	面積(平方米)	工費(圓)	一平方米當單價(圓)	摘 要
昭和四年	透式 ビチュリシツク	一、七六二・〇	一〇・九	一四、六一・七	三二、七六〇・三八	二・〇四八	成績良
同 六年	〃	一四八・〇	一〇・九	一、三四六・八	六三九・〇〇	〇・四七四	成績比較的良
同 八年	ワイレナイト ビチュリシツク	七二〇・〇	一〇・九	四、六〇八・〇	一一、三二〇・〇〇	二・四五六	成績良
同 九年	〃	五九〇・〇	一〇・九	一三、〇五〇・三	二九、六八七・〇〇	二・二七四	〃
同 年	トベカ式アスファルト・コンクリート	六四〇・〇	一〇・九	四、九〇四・〇	一一、〇〇〇・〇〇	二・二四三	〃
計		三、八六〇・〇	一〇・九	三九、九〇〇・八	八五、四〇六・三八		

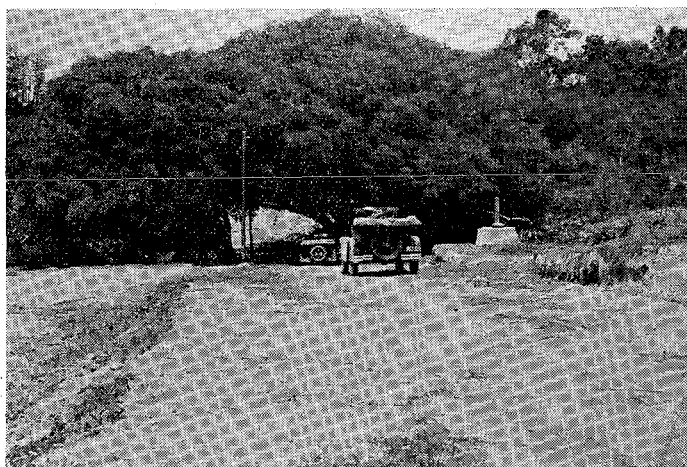
嘉義市鋪裝工事實施調

年度	種類	延長(米)	幅(米)	面積(平方米)	工費(圓)	一平方米當單價(圓)	摘 要
昭和五年	ビチュマルス	八五六・五	一〇・九	一四、四一・六	一一、九六一・二	二二、八三九・六四	一・八二
同 六年	〃	三四〇・〇	一〇・九	一〇、〇九	三、七〇九・〇	六、九五六・〇〇	一・八二
同 年	ワイレナイト ビチュリシツク	八三一・〇	一〇・九	七、七五九・三	一七、六七〇・〇〇	二・二四	〃
同 七年	〃	一、五三七・三	一〇・九	一四、八〇九・九	三八、三〇〇・〇〇	二・四〇	〃
同 八年	〃	九五七・二	一〇・九	八、三五六・六	二一、〇六〇・〇〇	二・四五	〃
同 九年	〃	七一〇・五	一〇・九	七、八五三・七	二〇、〇〇〇・〇〇	二・四五	〃
計		五、二三二・五	一〇・九	七、三一四・六	五四、四四九・八	一二六、八二五・六四	

但し工費中には監督費をも含んで居るものである。

此の「アスファルト乳劑簡易舗装は、工費が低廉であつて併も耐久力も相當あるのを確めたから、當市のやうな財政の豊かな都市には、斯かるものを施工するのが最も適切且つ急務であることを認めため、將來は曩に施設した乳劑工場の設備と相俟つて、原料の主材である碎石の製造工場を設置して、工費の低廉を計り、市内の交通量を篤と斟酌して、此の混合式又は浸透式を施工して舗装工事の普及を圖る積りであるとのことである。

嘉義市では前表のやうな舗装工事を實施したが、開通後の成績を見るのに何れも非常に良好であつて、例年多少の補足で漸く路體も整美して行き、殊に當市



臺南州下嘉義郡小梅竹崎道一ノ部(ガマジル・ネルト) (ルネント・ルマジガ)

のやうな臺灣での最高山岳地帯の麓野に偏在して居る砂質

に適當な粘土の交つて居る砂利敷やマカダム道路には適當の舗装工事を施して行けば其の効果も多いことにはれる。

尚嘉義市としては街路線延長五千五百九十六米に對し其の面積五萬四千九百五十平方米に、工費十七萬七千六百二十一圓を以て、十ヶ年間繼續事業として舗装工事の計畫を立てたが、市の財政の都合で何うなるか當市としては其の急施を要する路線から實施して行きたいと思つて居る。

### 七、高雄州に於ける舗装情況

高雄市では、昭和四年に偶々淺野セメント株式會社から「セメント」を寄附して呉れたので、州の直營工事として、市内の一部

に「コンクリート」舗装工事を實施した。又昭和八年には、大倉土木株式會社が市内の一部に無償（尤も砂利と砂とは市の負擔）で「シート・アスファルト」「トベカ」「エマルビヤ」の三種のものを試験的に舗装した。

來ないが、昭和九、十年度になつてから漸く其の豫算も計上され、州と市の費用で現在のやうに主要道路の舗装工事も實施することが出來たのである。其の數字は次の通である。

元來市の財政は豊でないから思ふやうには舗装工事も出

高雄市舗装工事實施調

年 度	種 類	延 長(米)	幅 員(米)	面 積(平方米)	工 費(圓) (セメントを除く)	一平方米當 單 價(圓)
昭和四年	コンクリート	四三四・一	九・七	四、二一〇・九	六、一〇〇・〇〇	一・四四九
同 九 年	ワレレナイト ピチユリシツク	六〇〇・〇	一〇・〇	六、〇〇〇・〇	一一、一〇〇・〇〇	一・八五〇
同 十 年	トベカ ワレレナイト ピチユリシツク	一、二九一・〇	一〇・〇	一二、九一〇・〇	三二、四九四・四七	二・五一七
〃	〃	八一五・六	一〇・〇	八、一五六・〇	一五、〇九二・三〇	一・八五〇
〃	〃	一七六・四	一〇・〇	一、七六四・〇	三、五六八・六五	二・〇二四
〃	トベカ	七九〇・〇	一〇・〇	七、九〇〇・〇	二、一七九・六一	二・七五九
〃	〃	二五五・九	六・〇	一、五三五・四	三、〇七〇・〇〇	二・〇〇〇
〃	ペノリシツク	一六〇・五	二〇・〇	三、二一〇・〇	三、七九一・〇〇	一・一八一
計		三、八一二・七	六〇・一	二〇、〇〇〇・〇	三、八、五七七・八	七、七、八九六・〇三

尙將來に對しては既成道路であつて舗装工事未施行のものは勿論のこと、新設路線へも其の工事と同時に舗装工事

を施行する積であつて、昭和十一年度から五ヶ年計畫事業をして總工費二十九萬七千九百三圓を計上し、内八萬三千

八百八十圓を國庫補助に仰ぎ、又同額の州費補助も受けて實施することになつたのである。

な路線三千間を選んで鋪裝工事を計畫したが、經費其の他の關係上昭和九年度迄に次のやうな實施を見たのである。

屏東市では、昭和六年度から十ヶ年計畫で、市内の主要

屏東市鋪裝工事實施調

年 度	種 類	延 長(米)	幅 員(米)	面 積(平方米)	工 費(圓)	一平方米當 單 價(圓)
昭和六年	ビチユマルス	三六九・一	八・二	三、〇一八・二	四、九九五・九八	一・六五五
同 七 年	エマルビア	四〇五・五	六・〇	二、四三三・〇	三、八九二・二三	一・六〇〇
同 八 年	〃	六七〇・九	四・九	三、二九四・一	三、六一五・〇〇	一・一三二
同 九 年	ペノリシツク	五三〇・九	七・三	三、八五九・〇	三、八八四・〇〇	一・〇〇六
計		一、九七六・四	四・九一八・二	一二、六〇五・三	一六、三八七・二一	

尙市の發展につれて、市財政を考慮し國庫及州費の補助を受けて、鋪裝工事を出来る丈實施する筈である。

八、花蓮港、臺東及澎湖の三廳下に於ては鋪裝工事を實施したものはない。 — 未完 —